

概況

1 製造業

一般機械	: 上向く動きが続いている
輸送用機械器具(自動車部品)	: おおむね横ばいで推移
電気機械器具	: 回復の動きに足踏み感がみられる
金属製品	: 引き続き上向いている
プラスチック製品	: おおむね横ばいで推移
印刷・出版	: 厳しい状況が続いている
鋳鉄鋳物(川口)	: 上向く動きがみられる

2 小売業

大型小売店	
百貨店	: 明るい兆しがみられる
スーパー(総合・ディスカウント)	: 弱い動きがみられる
商店街	: 厳しい状況が続いている

3 情報サービス業

ソフトウェア業	: 上向いている
---------	----------

1 製造業

(1) 一般機械 『上向く動きが続いている』

【業界の動向】県内の一般機械の鋳工業生産指数は、平成17年9月以降、平成18年3月を除き前年同月を上回って推移し、直近の7月は前年同月と比べると13.7%上回った。

【景況感】「一時の勢いが一段落した感がある」との声も聞かれたが、「当期は良かった」や「海外に出ていた仕事に戻ってきている」などの声が聞かれ、上向く動きが続いている。

【売上げ】「減った」とする企業もあったが、「増えた」とする企業が多かった。増えた企業からは、「印刷機械が好調だった」や「工作機器が好調だった」などの声が聞かれた。また減った企業からも、「売上げが減少した部門を他の部門がカバーし、小幅な減少で収まっている」との声が聞かれた。

【受注単価】「下がった」とする企業もあったが、「厳しいままほとんど変わらない」とする企業が多かった。「引き合いは多いが、単価が低く、受注まで結びつかない」や「原材料価格の上昇が大きい製品で一部転嫁できる程度である」などの声が聞かれ、厳しい状況が続いている。

【原材料価格】「ほとんど変わらない」とする企業もあったが、「上がった」とする企業が多かった。「鉄の値上げが大きく、売上げに占める原材料費の割合がアップした」や「原材料の調達コストが増加しているため、顧客に材料支給を求めることも考えなければならない」などとする企業が多く、厳しい状況が続いている。

【採算性】受注増加により生産性が向上し「良くなった」とする企業もあったが、原材料価格の高騰や高収益部門の売上げ減少などにより「悪くなった」とする企業が多かった。

【品目別の状況】射出成形機関連については、「自動車関連で一服感が出ており、このところやや減少している」との声が聞かれた。

金型の状況を見ると、トラック関連では一服感が出ているが、農業機械・産業機械(トラクター・フォークリフトなど)関連は好調である。

【設備投資】生産設備の新規導入や更新の話がすべての企業から聞かれた。今後についても、全ての企業で更新などを実施する予定である。

【今後の見通し】「良い方向に向かう」とする企業と、「半導体製造装置関連については、大手企業において、今後生産調整が出てくる」ことなどから「先行き不透明」とする企業に二分された。

(2) 輸送用機械器具（自動車部品） 『おおむね横ばいで推移』

- 【業界の動向】国内の四輪車生産台数は、平成18年8月には前年同月に比べ15.7%の増加となり、10か月連続で前年同月を上回った。
- 【景況感】「今の生産の水準は好況といえる」と話す企業もあるものの、「普通である」とする企業が多く、おおむね横ばいとなっている。しかしながら、「普通であるが、仕事があっても利益が出てこない」と、あまり良いとは感じない」と話す企業もあった。
- 【売上げ】「今年は、当初の予想では前年比5%のマイナスだったが、今のところ前年比プラスで来ている」、「8月は過去最高の売上げだった」と「前年比で1か月分売上げが多い」などの話が聞かれ、すべての企業で前年同期に比べ増加している。
- 【受注単価】「下がった」とする企業もあったものの、多くの企業が「ほとんど変わらない」と話している。「下がった」とする企業からも、「原材料価格が上昇した分について、一部値上げを認めてもらった製品がある」との話が聞かれた。「ほとんど変わらない」とする企業からは、「新しい製品は、いくらか利幅が良くなってきている」との話が聞かれた。
- 【原材料価格】「原材料はメーカー支給であり、あまり変化はない」と話す企業もあるものの、「ステンレスは今年4月に一度上がっているが、この10月にさらに大幅に上がる」、「特殊鋼は大幅に上昇しており、来期はさらに上昇する」と「原材料価格の上昇分は、今まではコスト削減で吸収してきたが、それもそろそろ限界である」などの話が聞かれ、「大幅に上昇した」とする企業が多かった。また、「ステンレスについて、10月納入分から納入を2割カットすると仕入れ先から言われており、ラインが止まってしまうのではないかと」原材料の必要な量について、今後確保できるか懸念している企業もあった。
- 【人件費】「受注の増加に対応するために人を増やした」と「時間外が増加している」ことなどから、「増えた」とする企業が多かった。また「新規受注に対応するため、10月を目途に経験者を10人くらい採用するため、来期は増える」と話す企業もあった。
- 【採算性】「人件費が増えている」、「メーカーのリコールの多発により、品質管理が一段と厳しくなり、検査を増やしている」と「人・設備が増え、さらに原材料価格が上昇している」ことなどから、すべての企業が「悪くなった」としている。
- 【設備投資】「昨年の春先に発注した設備が、今年の夏にようやく納品された」と「省力化や精度向上などを目的として、計画的に実施した」など、当期はすべての企業で実施している。
- 【今後の見通し】「来年に向けて新規受注予定が目白押しであり、良い方向に向かう」とみる企業もあるものの、原材料高の問題から「先行きが心配である」とする企業が増えている。

(3) 電気機械器具 『回復の動きに足踏み感がみられる』

- 【業界の動向】県内の電気機械の鉱工業生産指数は、平成18年3月から一進一退で推移しており、直近の7月は前年同月と比べると4.6%上回った。
- 【景況感】「仕事はあるが、人手不足により受注できないため、普通である」とする企業もあったが、「売上げは伸びているが利益が伴わないため、気持ち的には不況である」と「3年前に比べれば随分良くなったが、利益が上がって来ないため、普通よりやや悪い」などと話す企業が多く、回復の動きに足踏み感がみられる。
- 【売上げ】「前年同期比では増えたが、7月から9月初めは計画より悪かった」との声が聞かれたほか、前年同期が良かったことにより、「9月は前年比で2割減少した」と「前年と比べ8月は休みを増やしたため、かなり落ち込んだ」など、当期は不調だったとする企業が多かった。
- 【受注単価】すべての企業が「下がった」としており、「取引量が増えているため、値下げ要求を受けざるを得ない」、「新規の仕事も1年経つと安くなってしまふ。このパターンの繰り返しである」と「海外に出なければ、どうにもならない」など、厳しい状況が続いている。
- 【原材料価格】多くの企業が「上がった」としており、「プリント基板では、材料となる銅や金、樹脂のすべてが高騰しており、大変な状況である」と「テープ類や薬剤など、石油関連の物はすべて値上がりしている」などの声が聞かれた。
- 【採算性】「利益率の高い仕事が無くなったため、若干悪くなった」、「月次決算で、多少の利益が出る程度である」と「9月に入り全体では盛り返してきたが、プリント基板は好転が望めない」などの声が聞かれ、厳しい状況となっている。
- 【品目別の状況】「携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどが好調である」、「デジタル化によりビデオテープなどの組立の仕事はどんどん減り、代わりにハードディスクドライブ関連が増えている」などの話が聞かれた。
- 【設備投資】「常に生産設備を入れ替えている」と「クリーンな環境に特化した仕事を増やすため、クリーンルームを増設している」など、当期はすべての企業で実施しており、来期についても同様に実施予定である。
- 【今後の見通し】「どの仕事に関しても、いつまであるかわからない」と「原材料高はいつまで続くのだろうか」など、先行きを不安視する企業が多かった。また、「海外市場が広がっているため、今後は世界に目を向けていかなければ」と話す企業もあった。

(4) 金属製品 『引き続き上向いている』

【業界の動向】県内の金属製品の鋳工業生産指数は、平成18年4月に25か月ぶりに前年同月を上回った後、5月以降は再び下回って推移している。

【景況感】「自社も含め、各企業とも以前に比べ財務体質が良くなっており、後継者も決まってきた」、「悪いという企業は聞かない」や「バブル崩壊後控えていた社員旅行を実施した」などの話が聞かれ、前期に続いて上向いている。

【売上げ】「大手企業の生産調整が入り、多少減った」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「プラズマテレビや液晶テレビ関連の売上げが伸長した」や「コピー機、FAXなどの事務機器関連や遠心分離器などの医療機器が堅調である」などの声が聞かれ、売上げについては安定している。

【受注単価】すべての企業で「ほとんど変わらない」としている。「引き上げはできないが、引き下げの要請も来ていない」や「従来から取扱いをしている製品については、依然として引き上げができない」などの声が聞かれた。

【原材料価格】すべての企業で「上がった」としている。「銅、ニッケル、亜鉛などが大幅に上がっている」や「鉄板、アルミ、ステンレスは値上がり気味である」などの声が聞かれた。

【採算性】「悪くなった」とする企業もあったが、「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。「原材料価格は上昇しているが、生産性向上などの企業努力によりほとんど変わらない」や「原材料価格の上昇により多少の利益率低下はあるものの、量的には充足しており、値上げや採算割れの話は出ていない」などの声が聞かれた。

【品目別の状況】自動車関連、医療機器関連、事務機器関連や携帯電話の小型中継基地設備関連の受注は安定している。

【設備投資】バブル期の反省などから「設備投資には慎重を期している」と話す企業が多いため、ほとんどが更新となっているものの、当期はすべての企業で実施している。来期についても、「新工場向けに機械設備を購入する」とする企業もあり、徐々にではあるが設備投資を実施する企業が出てきている。

【今後の見通し】「先行き不透明」とする企業もあるが、「大手企業の設備投資が計画されており、良い状況になっていく」や「最近になって、海外で生産していたものが国内に戻ってきているため、今後は上向いてくる」など、「良い方向に向かう」とする企業が多かった。

(5) プラスチック製品 『おおむね横ばいで推移』

【業界の動向】県内のプラスチック製品の鋳工業生産指数は、平成18年5月に13か月ぶりに前年同月を上回ったものの、6月からは再び下回って推移している。

【景況感】「世間で言うほどには良いとは思わない。普通ではないか」や「現状が普通と考えられ、一時の悪かったときからみると安定している」など、すべての企業が「普通である」としており、おおむね横ばいで推移している。

【売上げ】多くの企業が前年同期を上回っている。品目別では、医療機器関連や自動車関連が好調である。

【原材料価格】「上がった」とする企業と「ほとんど変わらない」とする企業に分かれた。「上がった」とする企業からは、「原材料費の負担を軽減するため、大量に仕入れる原材料については、安くするように働きかけたい」との話が聞かれた。今後の動向については、「平均して10%程度値上げするという動きがある」との話が聞かれた。

【受注単価】「新規受注品については、原材料価格の上昇分を価格転嫁できた。継続品についても、取引先の理解が得られ、値上げできるものも出てきた」ことから、「上がった」とする企業が多かった。ただし、継続品への転嫁については、「一部のものにしかできないし、原材料価格上昇分の100%というわけにもいかない」との話が聞かれた。また、「新規受注品については転嫁した単価で見積書を提出したが、他社の方が安くて受注できないケースもあるなど、競争は厳しい」との声が聞かれた。

【採算性】「利益率の低い製品の見直しなどにより、良くなった」、「原材料価格の上昇分、悪くなった」や「ほとんど変わらない」などに分かれた。悪くなった企業からも、「利益率の低いものについては、受注の取り止めや単価の引き上げなどについて発注先と交渉し、採算性の低下を抑えていきたい」との話が聞かれた。

【設備投資】実施した企業はなかった。来期についても、実施を予定している企業はなかったが、「現在手作りしている製品を機械で製造できないか検討している。将来的には合理化のための機械を複数台導入していく考えがある」と話す企業があった。

【今後の見通し】「取引先からは発注が減るという話は聞かないし、全体として売上増も見込めるので、良い方向に向かうのではないかと」する企業もあったが、「良くも悪くもならないだろう。普通の状況が続くのではないかと」など、「現状のまま」とする企業が多かった。

(6) 印刷・出版 『厳しい状況が続いている』

- 【景況感】「ひどかった昨年に比べ売上げは少し増えたが、底を脱したとは思えない」や「不況業種だ。状況は変わらない」などの声が多く聞かれ、厳しい状況が続いている。
- 【売上げ】昨年より「増えた」企業もあるものの、「減った」企業が多くなっている。「8月の落ち込みは例年以上だった。その反動もあって9月は増えているがカバーできない」との声も聞かれた。
- 【受注単価】「売上げが減ったのは、受注量の減少よりも単価の値下がりが大きい」や「やや下がり気味だ。電子入札が導入された影響もあるかもしれない」などの声が聞かれ、「下がった」と話す企業が多かった。また、「付加価値の高い商品や難易度の高い商品でも、価格は変わらない。今後、顧客を納得させる基準を作成して、それらの受注単価を上げていきたい」との声も聞かれた。
- 【原材料価格】印刷用紙の値上げについては、「要求をまだ押し戻している」、「王子製紙のTOBの影響もあって話は止まっている」や「7月に上がった」などの声が聞かれるなど、企業によって様々であった。また、インクは値上がりしているが、「売上げに占める割合は低く、影響は少ない」と話す企業が多かった。
- 【採算性】「売上げが増えたので若干良い」との声もあるが、「売上げが減って悪くなった」とする企業が多かった。中には「悪くなって、利益が出るか出ないか、ぎりぎりのところだ」と話す企業もあった。
- 【個別分野の状況】「利益はほとんどないが、チラシが増えている」や「DMなどで新規の問い合わせが多くなっている」などの声が聞かれた。また、学校関係では、運動会や文化祭などの印刷物が例年どおり堅調だった。
- 【設備投資】「省力化のため、新規で機械を導入した」との話も聞かれたが、当期も実施しない企業が多かった。また来期について、「個人情報保護を目的として機械を導入する」と話す企業もあった。
- 【今後の見通し】「問い合わせが増えているので、今後受注が増えるのではないかと」期待する声もあるものの、「悪い方向に向かう」や「先行き不透明」とする企業が多かった。

(7) 鋳鉄鋳物（川口） 『上向く動きがみられる』

- 【業界の動向】鋳鉄鋳物（川口）の生産量は、平成18年4月、5月と2か月連続で前年同月を上回ったが、直近の6月は前年同月と比べると3.2%下回った。
- 【景況感】「数年前の悪かった時に比べれば好況だと言える」や「仕事がそこそこあり、横ばいかやや上向きといえる」など、すべての企業が好況だと話しており、上向く動きがみられる。
- 【売上げ】「今まで停滞していた公共事業（橋梁関連）が、やっと益明けから増えてきた」とする企業があったほか、「分野によってはばらつきがあるが、全体としては良い状況で横ばいである」とする企業があるなど、好調な企業が多かった。
- 【受注単価】「公共事業は、採算ぎりぎりのところまで下がってきている」と「下がった」とする企業もあったが、多くの企業が「ほとんど変わらない」としている。また、「鋳物の単価は目方で決まるが、製品は複雑化しているので、今後益々厳しくなる」との声も聞かれた。
- 【原材料価格】全体的に上昇傾向が続いており、「主原料（鉄関連）も副資材もすべてが値上がりしている」、「原油価格高騰の影響で、運送代や熱処理費、樹脂、木型で使う発泡スチロールなども上昇している」や「スチールスクラップは引き続き上がっており、鋳鉄は高値で安定している」などの話が聞かれた。
- 【採算性】「分野によっては悪くなった」や「原材料高が続いているが、受注単価が上がらないため、増収減益である」など、「悪くなった」企業が多かったが、「受注が落ち込んだ時期に、パートの勤務時間を削減したため、何とか昨年並みになった」とする企業もあった。
- 【個別分野の状況】「大型建設機械向けは引き続き増加しているが、射出成形機やエレベーター関連が減少した」、「橋梁関連が増えており、今年から来年にかけて、そこそこ出てくる」や「自動車や工作機械関連は、今までが良すぎたせいか、ここへ来て若干減少している」、などの話が聞かれた。
- 【設備投資】「ミキサーや旋盤を購入した」とする企業もあったが、「鋳物の設備は、特殊で高いためできない」など、多くの企業が実施しなかった。来期については、「電気炉を更新したいが、納品まで8か月待ちと言われた。先行きが不透明なので、どうしようか迷っている」とする企業があった。
- 【今後の見通し】「10月からは売上げが増える予定であり、昨年と同様にかなり忙しくなる。来年の3月までは、この状況が続くと思うが、その先は読めない」など、短期的には良い状況が続くが、長期的には不透明だと見通す企業が多かった。

2 小売業

(1) 大型小売店

百貨店

『明るい兆しがみられる』

【業界の動向】商業販売統計によると県内百貨店の販売額は、既存店ベースでは平成18年7月、8月と2か月連続で前年同月を上回った。全店ベースでは平成18年4月以降5か月連続で上回っている。

【景況感】「久しぶりに、売上げが3か月連続で昨年を上回った」や「前年を少し上回る売上げで安定している」などと話す店舗が多く、明るい兆しがみられる。

【売上げ】昨年に比べて台風の上陸が少ないことや、9月になって気温が下がるなどの天候もプラスに作用して、昨年の売上げを上回る店舗が多かった。

衣料品では、「婦人物では20～30代のキャリア向けはだめだった」や「紳士物ではビジネス向けが厳しかった」などの声も聞かれたが、「クリアランスは堅調で、9月に入って秋物の動きも良い」、「ほとんどの分野で好調だ」や「婦人物ではミセスは良い」などの声が聞かれ、昨年の売上げを上回る店舗が多かった。

食料品では、「スーパーとの差別化が難しい乾物では苦戦している」との声もあるが、「精肉、鮮魚などの生鮮品は、百貨店ならではの良いものを扱っているため好調だ」と話す店舗が多く、すべての店舗で堅調だった。

中元商戦については、「ウエイトが減って、お歳暮に一本化する流れがある」との声も聞かれたものの、前年並みの店舗が多かった。また、催事では、「夏休みの自由研究にもなるような企画を実施したところ、2～3世代での集客があって、子供服などで売上げが上がった」と話す店舗もあった。

【採算性】「変わらない」と話す店舗が多かった。「売上げが増えたが、経費も増えた。もっと売上げを伸ばさないと採算性は良くなる」との声も聞かれた。

【設備投資】テナントの入れ替えや売場の模様替えなどを、すべての店舗で実施していた。「この地域では出店していないブランドを導入した。値頃感もあって売れている」や「化粧品売場の各ブランドのスペースに、お客様の肌の手入れをするブースをつくったため、好調となっている」などの声が聞かれた。

【今後の見通し】「秋口から大型催事が続くので数字を伸ばしていきたい」や「今後、団塊世代やリタイア世代の需要が増えると思われるので、品揃えや接客を強化して売上げを伸ばしたい」など、期待感をもって話す店舗が多い。

スーパー（総合・ディスカウント）

『弱い動きがみられる』

【業界の動向】商業販売統計によると県内スーパーの販売額は、既存店ベースでは平成17年12月に21か月ぶりに前年同月を上回ったが、平成18年1月からは下回って推移している。全店ベースでは平成17年3月以降18か月連続で上回っている。

【景況感】「男性の需要がまだ持ち直しておらず、景気が良くなったとは感じない」や「天候不順もあるが全体的に良くなかった」などの話が聞かれ、弱い動きがみられる。

【売上げ】売上げはすべての店舗で「減った」としている。

天候不順による影響は大きく、衣料品では「夏物衣料が振るわなかった」、家電製品では「エアコン・扇風機などの夏物商材が売れなかった」、そしてスポーツ・レジャー用品では「レジャー商品やマリナ商品が売れなかった」などの声が聞かれた。

食料品については、「外食・中食産業の出店が旺盛で、家庭での調理が減少し、売上げが減少してきている」とする店舗もあったが、「納豆、豆腐、牛乳などは好調だった」や「野菜は天候不順で価格が高騰したが、注目が集まり逆に売れた」などとする店舗もあった。

その他の商品では、「最近、旅行関連の需要が大きくなっており、旅行用キャリーバッグなどが伸びている」、「健康ブームにより、黒酢やゲルマニウム関連商品（岩盤浴・入浴剤・肌着）の売れ行きが良かった」や「ぜいたく品であったマッサージ器が以前と比べて割安感が出たため、少しずつ売れてきている」などの声が聞かれた。

【採算性】すべての店舗で「良くなった」としている。「自社製造している総菜などで利益が出ている」、「取扱商品すべてに見直しをかけ、利益率の高い商品へ少しずつ入れ替えをしている」や「利益率の高いプライベートブランド商品を食料品や家庭用品で増やしている」などの声が聞かれた。

【設備投資】当期に実施した店舗はなかった。来期については、「売場の改装を予定している」とする店舗もあり、徐々にではあるが、実施予定の店舗も出てきている。

【今後の見通し】「天候が平年並みであれば、良い方向に向かう」とする店舗が多かった。

(2) 商店街 『厳しい状況が続いている』

【業界の動向】平成18年9月の内閣府の月例経済報告は、個人消費について、「このところ伸びが鈍化している」と総括している。

【景況感】「やや悪い。前に比べて下がってきている」や「また不況に逆戻り」など、「不況である」とする声が増えており、厳しい状況が続いている。

【来街者数】「落ち続けているようだ。とにかく人通りが少ない」との声も聞かれたが、「それほど変わっていない」とする商店街が多かった。

【売上げ】「ほぼすべての店舗で前年より減少しており、今までの回復の動きがスローダウンしている」、「相変わらず底を這っている」や「ほとんどの店舗が、どうにもならないくらい悪いと話している」など、いずれも苦戦している。

そのような中で、「飲食店とドラッグストアが元気である」との話が聞かれた。飲食店については、「今年開店した、いわゆるパブ形式の店が、サッカーワールドカップ以来好調である」との話が聞かれた。ドラッグストアについては、「同一チェーンの3店目がオープンする。店舗により、薬や化粧品など品揃えを変えているようだ」との話が聞かれた。

【設備投資】実施しているところはみられず、「各店舗とも、何とか経費を使わずにやっぴいこうとしている」との話が聞かれた。

【違法駐車取締り強化】6月から始まった違法駐車取締り強化について、あまり影響は受けていない商店街もあるものの、「取締り強化が始まって以降、来街者数、売上げともに非常に悪くなった」や「お年寄りの来街者が多く、彼らは商店街で簡単に路上駐車できなくなったため、車で来るのがいやだと言っている」との話が聞かれた。さらには、「誰も違法駐車しなくなったのは良いが、お客も来なくなった。死活問題であり、県警や地元警察署に陳情に行った」と話す商店街もあった。

【今後の見通し】「他の業種が好調なので、我々も先々は良くなると期待している」や「先行きがもっと心配になってきた」など、商店街によって様々だった。

3 情報サービス業(ソフトウェア業) 『上向いている』

【業界の動向】経済産業省の特定サービス産業動態統計調査によると、情報サービス業の売上高は、平成17年12月に8か月ぶりに前年同期を下回った後、平成18年1月以降は8か月連続で前年同期を上回っている。

【景況感】「やや良い状態であり、不景気と思っている人はいない」や「引き合いの強さや売上げの増加などから好況といえる」などの話が聞かれ、上向いている。

【売上げ】派遣業務や受託開発の引き合いの強さなどから、「増えた」とする企業が多かった。

【受注単価】「変わらない」と「上がった」に二分された。「変わらない」とする企業からも、「安いところとは取引しない」や「顧客満足度を上げて、当社独自のブランドを作っていくことで、単価を上げようと努力している」などの話が聞かれた。

【人件費】「ほとんど変わらない」とする企業もあるものの、「売上げの増加や活発な引き合いに対応するために人を増やしており、その分人件費が増えている」とする企業が多くみられた。

【採算性】「ほとんど変わらない」とする企業が多かった。

【個別分野の状況】派遣業務については、「自社の営業努力もあるが、引き合いが出てきた」や「技術者さえいれば、いくらでも仕事が取れる状態が続いている」などの話が聞かれた。また、「技術やノウハウの蓄積をするために、派遣業務を減らし受託開発を増やしてきたが、利益率が良くないので、再び派遣の比率を上げてきている」と話す企業もあった。医療関連システムについては、「既存製品は横ばいだが、新製品を展示会に出展したところ反響が良かったので、今後期待している」との話が聞かれた。

【設備投資】多くの企業で実施していない。

【採用】すべての企業が、来年度新規卒者の採用活動を行っている。しかしながら、「採用活動は去年以上に厳しい状態」や「大手がかなり採用している」などの話が聞かれ、予定人数を確保するのに苦労している企業が多い。

【今後の見通し】「バブル期と違い、今はどこも堅実だから、この状況がしばらく続くだろう」や「先行きの懸念は特にない」などの話が聞かれ、多くの企業が「良い方向に向かう」とみている。